

〈全日程オンライン (zoom)〉

コロナ禍で問われる保健・体育実践の意味 ～出原泰明の体育論に学ぶ～

自治体主導による一方的な水泳中止、授業時数確保の名の下の行事・部活動の中止・縮小ー新型コロナウイルスによるパンデミックは、あらゆる形で教育現場を侵食しています。

最大の問題は、当事者である子どもが声を上げる機会も与えられず、楽しみや活躍の機会が奪われていることです。子どものやる気は自主、自立、自治の源泉です。その芽がどんどん摘まれています。

その中で体育は何を期待され、どのような役割を果たしているのでしょうか。2020冬大会は、この問いに挑む大会にしたいと思います。全日程オンラインによる大会となります。

★主催：学校体育研究同志会 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-2-34 新宿マンション502

★期日：2020年12月27日（日）（申し込み締め切り 12/25）

| | | | | | | | | |
|-----|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 9:30 | 10:00 | 12:00 | 13:00 | 15:00 | 15:15 | 17:30 | 17:45 |
| 27日 | 開会 発題 | シンポジウム | 昼食 | 全体講座 | 休憩 | 講座 | 休憩 | 交流会 |

★参加費 会員・学生は無料 ※未会員は1000円（振込先は申し込み後に連絡します）

★参加申し込み…学校体育研究同志会ホームページ・又は、右記のQRコードから

★企画【シンポジウム】10:00～12:00

「コロナを通して見えてきた学校・教育の課題」

シンポジスト 岨賢二（兵庫）・西田佳（東京）・中村俊介（大阪）

新型コロナを通して露呈した学校・教育体制の問題点、特に「子ども主体の学校づくり」を進めようとする際の課題について、それぞれの地域の実情に基づいて提起していただきます。

【全体講座】13:00～15:00 報告者 伊藤嘉人（愛知支部）

「出原泰明・みんながうまくなることを教える体育～認識と習熟の変革過程を学習対象に～」

同志会の学習集団論・グループ学習論・教科内容論の研究・実践をリードしてきた出原泰明氏の体育論について学びます。コロナ禍の今だからこそ、「できるーわかる」「うまいーへた」の関係を編み直し、「みんながうまくなることを教える」の現代的な意義を再確認します。

【講座】15:15～17:30

| 日 | No | 講座名 | 担当者 | 内容 |
|-----|----|-----------|-----------|----------------------|
| 27日 | A | 障害児体育 | 障害児体育分科会 | 参加者による様々なあそびの紹介 |
| | B | 出原①・学習集団論 | 加登本仁・玉腰和典 | 「わかる」「できる」を通して結びつく集団 |
| | C | 出原②・教科内容論 | 制野俊弘 | 「体育は何を教える教科か」の探求 |
| | D | コロナ禍での実践① | 岨賢二 | 子どもを主体とした運動会の実践 |
| | E | コロナ禍での実践② | 西田佳 | コロナ禍での体育実践の展開例 |
| | F | コロナ禍での実践③ | 後藤 静・齋藤治俊 | 新型コロナウイルス感染症の授業 |
| | G | 体育実践 | 岡崎太郎 | からだの学習とベースランニング |

★申し込みは、同志会HPから、又は上記のQRコードを読み取ってください。

★申込みのあった方には、12/25までに提案資料（ファイル）とリンク先を配信いたします。

★問い合わせ：全国事務局 児玉望 メール：k.nozomu@jcom.home.ne.jp

